

2017～2018年度 京都部役員 抱負
(川上次期部長・廣井直前部長・高田監事・藤尾連絡主事)



京都部次期部長 川上 孝司(京都パレスワイズメンズクラブ)

「この小さな私たちに何が出来るだろうか。一人一人の力小さくても多くの仲間が力を合わせればきっと何か出来る。」
実はこの関係こそ国際協会ワイズメンズクラブの原点であり、また京都部という単位における人と人との関係もそうであります。今その団体にどっぷり浸かりこの度私のような若輩者が京都部部長という大役まで務めさせていただくことになりました。京都部皆様の思いをどこまでサポート出来るのかが私の仕事と思っています。
私は次期京都部部長としてやるべき課題はいろいろあります。国際交流をより広く、YMCAサービスをより深く。メネット事業をもっと楽しく、地域奉仕活動はより充実させ、EMCは真剣に。各クラブにおいては抱えておられる課題はいっぱいお持ちでしょう。中でも掲げた事業を行うにおいてともに働く仲間の数を増やすことが最大の課題となっています。次期を迎えるにあたり歴代の部長様も掲げられておられる課題を私も真剣に取り組む所存であります。皆様よろしく御願いたします。



京都部直前部長 廣井 武司(京都プリンスワイズメンズクラブ)

一年前のこの時期、不安と焦りが入りまじり頭を痛めていたように思いますが、今は全てから解き放され、自分の立ち位置がわかりにくくなり逆に戸惑いを感じています。
部の役員としても、役員会、評議会で会う以外、今期の役員の方々との交流を持つことはほとんどないでしょうし、多忙を極めた前年から見るとずいぶん生活に変化が起きそうに思います。しかし、京都部役員として責任はあるのですから、微力ながら直前部長としての存在の意義を考えながら、京都部のために働きたいと思えます。
歳をとったら出しゃばらず、人の陰口愚痴いわず、聞かれりゃ一緒に考えて、いつでも笑顔でいることに努めていきます。



京都部監事 高田 敏尚(京都ワイズメンズクラブ)

先日、浅田真央さんの引退のニュースをみていました。何度も後ろを向いたりして引退ってさみしいものだと思います。ワイズの引退のときも、あんなふうになるのかな。彼女のそれまでの軌跡をVT Rで紹介していましたが、もちろんスケートばかりでしたが、あっと思ったのが熊本の震災支援の画像です。なんと、真っ赤なビブス(ベストのようなもの)にYMCAとあるじゃないですか。びっくりしましたけど、うれしくなりました。熊本の支援に限りません。ワイズは社会のさまざまな困難にある人々を支える活動をしています。いま、リブランド、YMCAのブランド再生が言われています。YMCAって何をしているところ？と問われて、あの真央ちゃんの姿、それはとりもなおさずお一人お一人のワイズメンの姿ではないかと思っています。もう、部長を終えて1年がたちました。今期は監事として京都部に残り、YMCAブランドの再生に力を尽くしていきます。



京都部統括連絡主事 藤尾 実(京都YMCA)

いよいよワイズメンズクラブ京都部竹園部長期が部長主題として、スタートいたしました。部長主題である“*All Hands on Deck!*”(和訳:総力を挙げる!)にもとづいて、ワイズメンズクラブ京都部19クラブ一つひとつがそれぞれの場所で親睦、奉仕に力を尽くし、時には力を一つに合わせ、取り組むと、よりよい地域社会づくりにつながると信じています。
京都YMCAは加藤新総主事のもと、創立130年にむけて、新しい取組みのチャレンジを始めています。また、全国YMCAで取組みを進めているYMCAブランディングを本格的に社会に伝えていく年でもあります。私たちYMCAは「したい何かが見つかり、誰かとつながる。私がよくなる、かけがえのない場所。」を提供し、希望のあるより豊かな社会を創っていくことを目標に活動をすすめ、そのことを効果的に伝えることによって、より多くの方から共感、支援、賛同を得ることをめざしています。これらの新しいチャレンジには、ワイズメンズクラブのみなさんとの尚一層の協働が必要になってまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。